

兵庫県宝塚市の大樹さん

特別住民番号1394

生まれた時の体重が4,160gととても大きな赤ちゃんでした。生まれてすぐ、私のお腹の上に乗せられ親子の対面をしたのですが、母親である私を実感したのは、この子の生命力の大きさでした。大樹という名前は、大きな樹木のように、高く、太い人生を送ってほしいという願いでつけました。また、自分のことだけでなく、まわりの人を温かく見守り、包容力のある人間になってほしいなという思いもありました。



現在、大樹は中学校一年生になりました。生まれた時、大きかった大樹は、今もやっぱり大きく、身長は170センチもあります。サッカーが大好きで毎日、ボールを追いかけて、のびのびとくらしております。包容力まで身につけているとは思いませんが、私の目からみても、とてもやさしい男の子に育ったと思います。

今回、子どもと同じ名前の町があることを知り、本当にうれしくなりました。そして、その町が、広大な北海道にあるということなので、ますます感激しています。名前をつけた時は、そこまで考えなかったのですが、大樹町と出会えたことで大きな樹が育つには、しっかりとした根っこがあり、根をおろす大地が必要だということも感じる事ができました。

大樹もこれから、成長するにつけ、いろんな壁にぶつかり、苦しむこともあると思いますが、自分の力で乗り越えていってくれることと信じています。そして、私も親として、樹木を支える大地のように、温かい気持ちで見守ってやりたいなと思っています。
(母)

千葉県船橋市の大樹さん

特別住民番号1400

ぼくは、1歳5カ月。何でも一人でできるのに、パパとママは、毎日うるさいんだ。お兄ちゃんは、大好きだけど、なんだって、永遠のライバル。ぼく、負けないぞ……。と、言う事で、母である私がペンをもちました。



我が家の次男は、「大樹」と書いて、「ひろき」と、読みます。長男と共に、地面にしっかり足をつき、根をはり、心広い人間になってほしいと命名しました。ちなみに長男は、大地(だいち)と、言います。「大」と言う文字をつけたく名前を考えました。そこで一つ気がかりなことが、読み間違えられることです。同じ「だい」と読み方をすると、私たち親が兄弟を呼ぶ時、紛らわしいと思い、「ひろ」と読むようにしました。

これから先、長い人生、幾度となく読み間違えられ、いやな思いをする事があるでしょう。そんな時は、はっきりと答えてほしいのです。「僕はひろきです！」と……。

生まれた時、大樹はとてもやさしい産声でした。しかし、体はがっちり顔もふっくら、長男を一回り大きくした、体重3,984gで生まれてきたのです。顔を見てきつとこの子は、自分の名前をはっきり言えると確信しました。いやな思いをしても、願いを込めてつけられた名前である事、大樹の誕生を家族皆が、待ちわびていた事など、愛情を感じた時、きつと読み間違えられる事などどうでも良く思える日がくると、信じています。

現在1歳5カ月のあなたの寝顔を見ながら、元気に大きくなあれ！と思う限りです。
(母)

北海道石狩市の大樹さん

特別住民番号1406

我が家の長男・大樹(ひろき)が産声をあげたのは、平成5年9月19日の午後9時頃でした。体重2,760グラムの比較的小さな赤ちゃんでした。



私(父親)は、「はじめての子」ということもあって、出産予定の半年以上も前から子どもの名前を考え始めました。「姓名判断」に関する本を5冊も買いこみ、日夜研究に励みました。周囲の声から「女の子が産まれる。」と確信した私は女の子の名前ばかり考えていました。万が一を思い、出産予定1カ月前には、一応男の子の名前も考えました。私なりの研究の結果、「木へん」がつく字が良いという結論に達し、そこから「樹」という字を名前の一部につけようと考えました。それから色々な字を組み合わせて考え、最終的には「和樹」「祐樹」「大樹」という3つの候補を考え出しました。無事に出産が終わり、生まれたのは男の子だと告げられました。その時は「やっぱり男の子の名前を考えておいてよかった。」と思いましたが、3つの候補のうち、どれにすればよいかはわかりませんでした。誕生の翌日、真白い産着に包まれた我が子をはじめてこの手に抱き、看護婦さんから「赤ちゃんの体重を測ってあげて下さい。」と言われ、おそろおそろ体重計にのせてみました。すると、体重計にのった我が子は両手・両足を大きく広げ、「大の字」になったのです。その姿を見て、この子の名前は「大樹」にしようと思ったのでした。その大樹も来年は小学生になります。名前のように、大地にしっかりと根をおろし、天にむかって大きく伸びる樹のように心も体も大きくしっかり育ってほしいと願う今日この頃です。(父)

群馬県富岡市の大樹さん

特別住民番号1427

涼を誘う葦簣越しに見える釣忍や風鈴さえ静止し、真夏の厳しさに耐えているような猛暑の8月。平手で両頬を叩きながら「眠っちゃだめ、眠ったら死んじゃうよ、目を閉じちゃだめ、しっかり目を開いて、しっかりもう少して生まれるから頑張る。」助産婦さんの大きな声。隣の部屋では生死をさまよう気遣う家族に言葉も無く緊張と沈黙の中、心の中で皆、母子共に無事であるよう祈っておりました。30分後家族に見守られる中、「オギャー。」大きな声で「男の子ですよ。」こうして僕は、4,250gという我が家で一番ジャンボな赤ちゃんとして誕生。3人兄弟の末っ子として生を受けたのです。その後母も順調に回復し退院する事ができました。そんな母が僕に大樹と名付けてくれたのです。母は多くの方に支えられ無事出産できた事に深く感謝し将来親子共々少しでも役に立てるよう、大きな樹となり多くの人が集い、春は花を咲かせ目を楽しませ、夏は陰となり一息つける、秋は実をつけ、冬は耐える心を持てる人間。心温かく人の悼みの分かる心の広い人間に育ってほしいと願いを込め大樹と名付けてくれたそうです。ここで少し母の紹介を致します。一言で言うと変な人です。地球上の生き物は自分の意志で生まれている訳ではないといい昆虫や爬虫類、小さな虫でも全然怖がらない女です。子育ても三人兄弟は幼い時から母に叩かれた事も大きな声で怒鳴られた事もあります。学校に通い始めた時にも「学校の給食は美味しい、体育は楽しい。」と聞くだけで一つ楽しい事があると学校は楽しいよと言うだけ。僕は今大学一年生ですが母に勉強しなさいと言われた事はありませんでした。「お金も学歴も無いけれど宝はやっぱり子供だね。」と言う母が心をこめて名付けてくれた名前に恥じぬよう無理なく僕なりに自然体で自分の道を歩んでいきたいとします。僕が中学生の時中体連ハンドボール大会で北海道で全国優勝した時から、北大に憧れ合格したのですが家庭の事情で今はK大学に通い馬術部に入っておりますがいつか家族全員で壮大な北海道で思いっきり馬に乗り走ってみたいと思っております。



神奈川県二宮町の大樹さん

特別住民番号1428

大樹町を車で通ったのは今から20数年前の昭和52年頃のことである。当時大学生であった私は、夏休みを利用して富良野で農業実習をした。牧草の収穫作業も一段落したある夏の日、帯広まで農場主に案内していただいたのであった。車窓から見る風景は広々とした草地が冷たい雨にうたれ、ところどころ霧が出ている。黒々と続く針葉樹の森に圧倒され



る。「ここは大樹町だ」と紹介された。

出産を終え実家にいる妻から電話が入った。「名前、決まった…」。初めての子であった。顔も見えていない。生まれる一週間前から、名づけ本をながめては見たもののしっくりとこない。生まれて名前がない日が続くのもかわいそうな気がしていた。「いろいろ考えたけども、たいきというのはいかがか。」「どんな字…」。『大きい樹』。『いいじゃない』。妻の賛同に後押しされる形で初めての名づけを終えた。厳しい自然の中で育つ大木のごとくたくましく育てほしい。そんなイメージが欲しい。そのときなぜかしらふと頭に浮かんだのがあの北海道の大地であった。

祖父が亡くなったのは7年前である。山仕事が好きで、『山があれば何もいらぬ』と言って晩年まで山に入った。『あと30年も経てば立派な木になって役に立つ』。自分の子供を残すかのような思いだったのかもしれない。その祖父が倒れ、病院のベッドのことである。私は『大樹』をつれ見舞に訪れた。『おじいさん、大樹と一緒にきたよ』。顔をゆっくりこちらに向け『大樹か、良い名前をつけたなあ』とうわごとのような声であったがしっかりと聞き取れたのであった。山を愛した祖父は、私がわが子に抱いた想いを理解してくれていたのであった。私は、祖父の生きざまを尊敬していた。

生まれてまもなく、できれば北海道大樹町に誕生記念樹を植えたいと思っていたが実現していない。この町が親子の絆となって欲しい。(父)

岡山県井原市の大樹さん

特別住民番号1429

大空と大地の北海道が大好きです。

大地にどっしりと立つ大きな樹木のように、しっかりと根を張って生きていく。大雨が降ろうが、強風が吹こうが、どっしりと構えてそれらを受けとめられる強い人になってほしい。そんな気持ちを込め、男の子の名前は『大樹』にと考えていました。特に『大』の字は、最も北海道らしい字だと思います。『でっかいどーほっかいどー』ってありましたっけね。



1人目の子は女の子で『智美』に。2人目の子も女の子で『美咲』に。そして3人目が男の子だったらやっぱり『大樹』にと、こりもせず考えていたのです。我が家の大樹はこうして2人の優しい？お姉ちゃんに見守られて誕生したのです。

大好きな北海道に『大樹町』があることを知りとても嬉しかったです。そして我が子が特別住民になることができ、遠い北海道がとても身近に感じられて本人以前に親の私達が幸せです。我が家の大樹はまだ2歳半で親の心が分かっているやらないやらですが、いつの日か家族5人揃って北海道旅行をし、大樹町に行ってみたいと思っています。いつ叶うか分かりませんが……。

大樹が元気に成長していくこと、遠い北海道の大樹町からも応援してやって下さい。(父母)

東京都日野市の大樹さん

特別住民番号1433

平成7年10月31日、午後12時3分、2,940g、49センチの男の子が産まれました。樹木のようにどっしりと、大きく育てて欲しくて『大樹』とお父さんがつけました。

現在は、3歳、13キロ、93.3センチです。3つ年上のお姉ちゃん『気恵』の洋服の後ろをにぎりしめ、おいていかれないように、いつもくっついて甘えん坊です。

よく小さいと言われる。本人は『小さい』と言われるのがいやです。だから、自分の事を『ぼくは、お兄ちゃんです。』と言っています。

小さい甘えん坊ですが、『大樹』の名前に負けないう、これからも見守ってほしいと思います。(父母)



大樹町の皆さん、はじめまして！ 中西大樹、三歳五ヶ月です。
「大樹」という名前は、お父さん、お母さんが、大らかに、のびのびと育て
ほしい！と願いを込めて、つけてくれました。
ボクも大変気に入ってます！ 今度、大樹町に遊びに行きたいです。



“大きな樹木のように、たくましい大きな人間になれ”

生まれた時、四千グラムもある目のパッチリした大きな赤ん坊でした。
命名するにあたり、大きな樹木のように～をイメージして、みんなが寄り
かかっても倒れないようなどっしりとした人になってほしいとの願いを込
めてつけました。読み方も“だいき”と“たいき”のどちらにしようかと考
え、澄んでいる音の方である“たいき”が増田の姓にも似合っているねと
なり、みんなで決めました。



また、お父さんの名は英樹で、叔父さんは伸樹です。同じ“樹”が使われています。これは名付けた祖父母の好きな字だそうで、やはり、孫たちにも、樹をつけようということもあり、○樹というスタイルの名前を、ずっと考えていました。そして、大樹という名前になったのです。

今、19歳になり、我息子はミュージシャンを目指して上京し、日々、ドラムの練習に励んでいます。まだまだ、大樹にはほど遠く、強風が吹けば倒れてしまいそうな青年の木ですが、気持ちはやさしくみんなから頼られることのお兄さん的な存在の様です。夢に向かって歩き始めた姿を遠くから応援しながら、少しずつたくましくなっていく事を願っています。

昨年、いただいた特別住民票を宝にして、いつかは大樹町に行こう、行って自分の目で大樹町がどんな町なのか見てこようと様々な出会いを楽しみにしている様です。

ドラマーの夢がかない世界にはばたく活動ができる様になったら、いつか大樹町でライブができるといいですね。

“第二のふるさと大樹町で”(母)

平成8年12月、新年を目前にして、各企業が今年最後の仕事仕上げに多忙な中、12月に待望の子供が誕生しました。

誕生する以前から妻の腹の形を見て、親戚が、「恐らく女の子だろう」と皆が言っていたので、私自身もその気になり、女の子の名前しか考えていませんでしたが、いざ産まれてみると意外にも男の子でした。見た目には、鼻から上は私似、鼻から下は妻に似ていて、妻のおなかの中で恐らく口で吸っていたと思われる傷が左手首にありました。



男の子の名前を考えていなかった私は、早速、名前を考え始め、最終的に名前を「大樹」と書きタイジユと読む名前に決めました。

名前を決めた由来は、大きい樹木のように大きな人間になる様にと願いと、鳥達が樹木に集まる様に、人々に慕われ、人々に信頼されるようにと願いを二つ込めて決めました。

私自身、「大樹」に望むことは、健康に育ち、素直で優しい子供に成長して欲しいと言う事と、若い時にしか出来ない事、例えば、勉強や部活動、友達との遊びや恋愛など、とにかく、その時にしか出来ない事を一生懸命やる子供に育ててほしいと思いま

す。

平成10年3月21日には、女の子で長女「以杏」(イアン)も誕生しました。家族も増えて、今とても賑やかで、楽しい生活を日々過ごしています。家族の皆が、これからも健康で、仲良く、幸せに過ごせる様に、私自身も頑張っていきたいと思います。(父)
